

みんなの広場

毎日新聞 平成31年（2019年）3月22日（金）

夢だった仕事のスタート台に

大学生 平尾 優衣22（奈良県大和郡山市）

私は4月から社会人になる。昨年11月に内定をいたしました。つい最近、配属先も決まった。高校生の時になっていたいと思った保育士として働くことになる。

初めは、こんな私に本当に保育士が務まるのだろうか、学生ではなく社会人としての自覚が持てるのだろうか、と不安がたくさんありました。しかし、研修が近づくにつれ、その不安は樂しみに変わってきていた。大好きな子どもたちと関わることができる道を選んだこ

とは、おそらく間違っている。応援してくれた家族に感謝したい。

夢であつた保育士になれ。だが、それは「ゴール」ではなく「スタート」なのだと、ある方からの言葉をいたい。まさしくその通りだと思う。間もなく踏み出す夢への第一歩。子どもたちと向かい合う日々の中でも技術や学びを深め、保育士として重要な力を身に着けていきたい。

※無断転載不可